表１　食糧用小麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年比
平成17	568	99%
18	597	105%
19	569	95%
20	548	96%
21	560	102%
22見込み	598	107%
23見通し	574	96%

１－２　国内産食糧用小麦の流通量

⑴　国内産食糧用小麦の供給量（当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡された数量）

平成23年産の国内産食糧用小麦の供給量は、平成22年11月の民間流通連絡協議会において報告された平成23年産の作付予定面積に、10ａ当たりの平均収量(注1) 408kgを乗じ、さらに、食糧用供給割合（97.6%）(注2) を乗じて、82万トンと見通します（表２）。

（注１）　過去７か年（平成15年～平成21年産）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた５か年の平均値（都道府県別）を平成22年産の都道府県別の作付面積で加重平均したもの（以下同じ）。

（注２）　当年産のうち、生産者から実需者に引き渡された割合。平成23年産については、平成20年産～平成22年産の平均値である（以下同じ）。

⑵　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通した量）

平成23年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成23年産の国内産食糧用小麦の供給量に過去の供給実績から見通される年度内供給比率(注3) を乗じ、さらに、平成22年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて66万トンと見通します（表２）。

（注３）　当年産のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡された割合。平成22年産及び平成23年産については、平成19年産～平成21年産の平均値である（以下同じ）。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	食糧用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成17	83	37	44.8%	46
18	79	38	48.0%	41
19	87	41	47.0%	46
20	84	38	44.6%	46
21	64	30	46.5%	34
22見込み	53	25	46.0%	28
23見通し	82	38	46.0%	
		23年度流通量見通し		66

注：国内産食糧用小麦の供給量は、は種前契約に基づき、生産者から需要者に引き渡された数量である。

１－３　外国産食糧用小麦の需要量

平成23年度の外国産食糧用小麦の需要量は、総需要量574万トンから国内産食糧用小麦流通量66万トンを差し引いて508万トンと見通します（表３）。

１－４　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

平成23年度の備蓄目標は、97万トンとします（表３）。

なお、民間が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分については、国が保管料を助成します。

１－５　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成23年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増加分を加えた511万トンと見通します（表３）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表３　平成23年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	574
国内産食糧用小麦の流通量		B	66
外国産食糧用小麦の需要量		C＝A－B	508
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	22年度（見込み）	a	95
	23年度（目標）	b	97
	増減	D＝b－c	2
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		E＝C＋D	511

(注)　四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

２－１　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.2～0.3kgで推移しています(図２)。

このため、平成23年度の総需要量は、過去５年間（平成18年度から平成22年度まで）の平均需要量である36万トンと見通します（表４）。